

第4回 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会要録

- 【日 時】 平成 28 年 4 月 25 日（月） 午後 7 時 00 分～ 8 時 57 分
- 【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3 階見学者ホール
- 【出席委員】 阿部迪子 岡内歩美 加藤慎次郎 木村 浩 齋藤尚志 迫田洋平
白石ケイ子 田口 誠 竹下 登 能勢方子 濱中洋子 平岡直樹
前田美和子（敬称略）
- 【事務局】 和地クリーンセンター所長 柏倉課長補佐 他
- 【欠 席】 西上原節子 今木仁恵 花俣延博 山本信之
- 【傍 聴】 1 名
- 【配布資料】
- | | |
|-------|---|
| 資 料 1 | 容器包装リサイクルについて |
| 資 料 2 | 多摩地域で家庭系の容器包装プラまたはプラスチックを
有料化している自治体 |
| 資 料 3 | 集団回収他市比較調査表 |
| 資 料 4 | 平成 26 年度 スーパーの店頭回収による年間収集量試算 |
| 資 料 5 | 武蔵野市における小型家電リサイクル法への対応についての考え |
| 資 料 6 | 総括的な課題の整理 |

《事務局より配布資料の説明を行った。》

1 開 会

【委員長】

第 4 回ごみ収集の在り方等検討委員会を開会する。事務局の説明を求める。

2 議 題

(1) 前回会議要録の内容確認について

第 3 回会議の議事録をお配りしている。次回の会議までにご確認いただき修正箇所等があればご指摘いただきたい。第 2 回の議事録については、委員名を伏せた上で、HP で公開を行う。

(2) 資料説明

《事務局より、資料 1 「容器包装リサイクルについて」について説明を行った。》

【委員長】

只今の説明について、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

(質疑応答：特になし)

《事務局より、資料2「多摩地域で家庭系の容器包装プラまたはプラスチックを有料化している自治体」について説明を行った。》

【委員長】

只今の説明について、何かあれば伺いたい。

【A委員】

有料化について、発生量の抑制の効果については不明な点もあるとのことであるが、経費について有料化による歳入により、トータルとしてコストダウンになっているという意義があるのではないか。

【事務局】

有料化するにあたって有料コスト製造や保管、配送といった経費も掛かる。それらを踏まえて考える必要がある。その点についてもしっかり確認していく。

【B委員】

資料を見ると同じ有料化といっても、市によって袋の値段が違う。価格差は、有料化についての市の考え方が異なるからなのか。とても不思議な気がする。

【事務局】

有料化については市によって考え方はばらばらである。例えば、平成16年度本市において、可燃ごみの有料化を行った際には、事前に市民アンケートにより、ひと月当たりの一世帯あたり負担可能な金額を調査し、500円/月という使用料を設定した。そこから、一世帯あたりの人数と当時の一人一日あたりのごみ量をもとに、10あたりの金額を2円とした。三鷹市は収集・中間処理等の処理費用から計算したと聞いている。また、西東京市では、先の資料説明にあるようにごみ有料化後、想定したごみ量から削減されたため、手数料の値下げを行った。このように、ごみ処理手数料の金額についての考え方は、自治体ごとの制度設計の考え方により異なるものである。政策誘導を重視し、高めに金額を決めるということもあると聞いている。

《事務局より、資料3「集団回収他市比較調査表」について説明を行った。》

【委員長】

何か質問・意見等があるか？

(質疑応答：特になし)

《事務局より、資料4「平成26年度 スーパーの店頭回収による年間収集量試算」について説明を行った。》

【委員長】

今の資料説明について何か質問・意見等があるか？

この資料でみると、その他プラスチックとして行政収集されたものが1,777 tで、そのうち白色トレイとして中間処理場で分別されたものが1.2 t。という事はその他プラスチックに占める白色トレイの量というのは、かなり少ないものと理解してよいのだろうか？

【事務局】

白色トレイ等に関しては店頭回収等もご利用いただくようにアナウンスもしてきており、このくらいの量になる。

【A委員】

わかりやすい資料である。トレイの回収量を見ると、全体の1,777 tと比べると非常に少ない。なぜ、店頭に集まるトレイの量は約20 t位にしかならないのか。もっと、回収量が多くなると思うのだが。

【C委員】

市内で排出される容器包装プラスチック全体の行政による回収量が、1,777 tである。白色トレイは、あくまで容器包装プラスチックの中の一部であり、そういったなかで、店頭回収によるトレイの回収量が約20 tあるということである。ちなみに、中間処理場では、手選別によりきれいな白色トレイのみを回収しており、その量が1,777 t中の1.2 tである。

《事務局より、資料5「武蔵野市における小型家電リサイクル法への対応についての考え方」について説明を行った。》

【委員長】

回収方法により、回収量が変わるのか。また、手法により、回収される小型家電等の質も変わってくるのか。

【D委員】

小型家電リサイクル制度は、当初想定したやり方が、金属類等の買取価格下落により、回らなくなっているのが現状である。小型家電については、食べ物とは異なり余計に買う人は少ない。日常生活から出る食糧等のごみとは性質が異なる。量については見込みは算出されているが、それほどの量があるとは考えられないのではないかとも思う。

現在、本市では、ピックアップ回収を都市鉱山と称し行い、障害者の皆さんが従事している。不燃粗大ごみからピックアップし、分解し希少金属等の純度を高めることで、売却益を出している。資料の説明にあったように、分別し資源化したとしても、収集コストが過大になると行う意味がない。現在の社会状況においては、コストがかからないように、従前のピックアップ回収をしながら、イベント回収を組み合わせながら行いつつ、社会状況を注視していくことが現実的ではないかと考えている。

ちなみに新クリーンセンターが稼働した後は、ピックアップ回収の拡充が可能である。買取価格が大幅に値上がりすれば、不燃ごみの回収日を小型家電等の回収に振替えることで、戸別収集を行うことも考えられるが、安定していない買取価格に基づき判断することはいかなものかとも思う。まずは、小型家電の回収を段階的に取組み、あわせてごみ減量・資源化を啓発できればいいのではないか。

(3) 課題の整理

《事務局より、資料6「総括的課題の整理」について説明を行った。》

【E委員】

集団回収について、かつて減量協議会の場で市の職員より、集団回収が増えると税金の支出が増えるとの話を聞いた。確かにそのような点があるかとも思うが、驚いたのを覚えている。集団回収の必要性の是非を含め見直す必要があるのではないか。集団回収をすることを前提に考えることが果たして良いことなのか。当初、コミュニティーの醸成を意識して参加していた方々が、高齢化し継続が難しくなっている。従前の形ではなく、例えば戸別回収の体裁を取りながら集団回収とするような例もあるように聞いている。そのように負担のかからないやり方についても検討すべきである。集団回収の資料を見ると、武蔵野市の補助金は高いと思う。また、マンションでは普通に集めた資源物の排出を、集団回収とすることで補助金を管理費用に充当しているようなところもある。改めてそれらの点も考える必要がある。

また、拡大生産者責任の観点から、例えば行政収集と新聞販売店の自主回収のように回収手段が複数ある場合は販売店回収に回し、行政収集を少なくするようにすることが大事である。その意味で、新聞販売店やスーパーの回収を求め、それ以外の本やその他プラ等回収手段のないものについては行政収集とするようにした方が良いと考えている。

容器包装リサイクル法の有料化についての他市の事例について丁寧に説明していただ

き感謝する。容器包装のリサイクルは非常に費用が掛かり、また、全体の費用の8～9割を自治体が負担しているとの話がある。自治体の負担が大きいので容器包装リサイクル法に則った回収ができない自治体もあるような状況である。今回の説明を聞いて有料化は大事だと思っていたが、必ずしも適切ではないと思うようになった。

店頭回収の報告について、減量協議会でもかって調査し、同様の資料が作成されたことがある。店頭回収については、報告にあった3品目に加え透明トレイの回収をスーパーで行ってほしいと思っている。きれいなトレイ類については、店頭回収行うべきである。

ペットボトルのリサイクルについては、スーパー等への働きかけについて減量協議会で行い、また、行政もかって行ったが、あまり積極的ではない。クリーンむさしのを推進する会では今後取り組んでいきたいと思っている。スーパーには回収ボックスが設置されており、コンビニでも60店舗中30店舗でボックスが設置されている。そのこともあり、やりやすいものとして店舗でのペットボトルの回収を進めるように力を入れている。この検討会での議論を受けて、来年度にはペットボトルの回収頻度を減らし、5年後には行政収集を行わないようになれば良いと思っている。

【A委員】

資料6のような形で検討するのであれば、資源物だけでなく、可燃ごみも含め全体として検討したら良いのではないかと。

【F委員】

一人当たり一日あたりの排出量では可燃ごみは多摩地域での平均であるが、資源ごみは多い状況にある。ごみの収集等は重い課題であり、議論を絞るためには、可燃ごみは対象とせず、排出量の多い資源ごみを対象として検討すべきであると考えている。可燃ごみについては、排出状況等を見ながら必要な場合に、このような形で別に委員会を設置し検討することも考えるのではないかとと思っている。

(4) その他

【委員長】

それでは、次の「その他」に移りたいと思う。事務局から何かあるか。

【事務局】

資料6「総括的課題の整理」について、各委員の意見がある場合は5月16日までに事務局に送ってほしい。事務局は、その意見等に基づいて資料や考え方をまとめて報告する。

当初スケジュールはご説明しているが、これから議論を深めることを考えると、当初スケジュールを見直すことが必要と考えている。このことは、次回議題とする。

次回検討会議は5月下旬に行いたい。おって日程調整を行う。

【委員長】

委員のみなさまから何かあれば、ご発言をお願いしたい。

(発言なし)

【委員長】

よろしいだろうか？ これにて、第4回の会議を閉会とする。

以上